

病俣水

補償で等級分け

県衛生部長ら6人 症状諮問委が発足

二日午後の水俣病補償処理委員会（千種達夫座長）は東京・永田町の薬業健保会館で開き、補償の前提となる患者の症状の等級分けをするため「症状諮問委員会」を発足させ、委員に伊藤運雄熊本県衛生部長ら六人を決めた。

補償処理委は被害者の一任派六

十四世帯七十五人のうち、生存者四十九人を対象に症状のランクをつける考えて、笠松章委員（東大医学部教授）を現地に派遣して書類審査に当たるとともに、同諮問委の意見を求め、その意見を尊重して処理委が等級別を決定する方針である。死者についてはこれと

並行して補償方式の検討を続ける。次回の補償処理委は会社側から事情聴取するが、日時は未定。

症状諮問委員は伊藤部長のほか水俣市立病院長大橋登、同副院長三島功、熊本大学医学部教授資田丈夫、同立津政順、同徳臣晴比古の五氏。